

### (3) 双葉断層

双葉断層は、新編「日本の活断層」(1991)などでは、原町市大原以北の10数km間では活断層、原町市大谷以南では活断層と推定されるものとされています。

この断層のうち、原町市大谷以南では、10万年前～数万年前以降の断層活動がないことを示す地形・地質データが得られ、大熊町の山神地点では、少なくとも約8万年前より新しい活動がないことが直接確認されました。

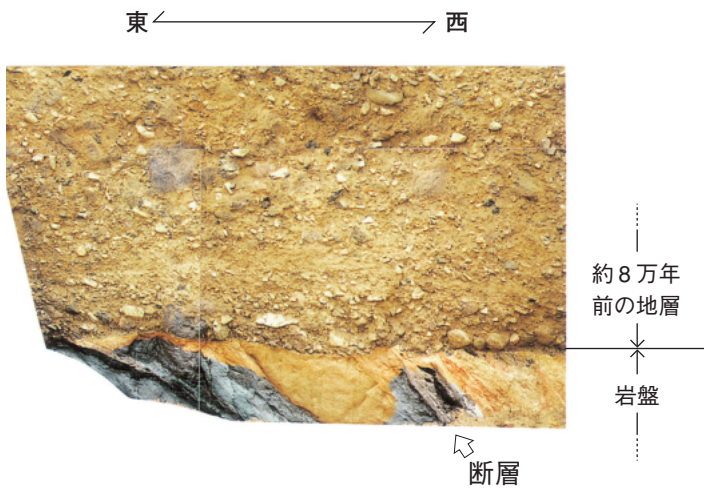
一方、大原以北では、最近でも断層活動を繰り返していることが明らかとなりました。その活動は、西側の隆起を伴う左横ずれ型で、断層を挟んで西側の地盤が、東側の地盤に対して相対的に隆起しながら南側に移動しています。

#### 過去の活動について

原町市大原以北の双葉断層では、過去の最新活動は約2000年前にあったことが確実です。

また、この最新活動の1回前の活動時期は約9500年前～約12000年前の間であることが明らかとなり、活動の間隔は約7500年～約10000年となります。

最新活動とその1回前の活動の変位量はほぼ同じ量で、横ずれ量を含めた1回の活動による実変位量は約1.5m～約1.6mであることが明らかとなりました。



大熊町山神のトレンチ南壁面の写真



#### 双葉断層の分布図

- : 活断層であることが確実なもの
- - - : 活断層と推定あるいはその疑いのあるもの

国土地理院発行の1/20万地勢図「福島」・「白河」に新編「日本の活断層」(1991)による断層、調査地点などを加筆